



**説明書作成ICTプログラム
(二宮尊徳の教えを学ぶ)**

おおたかの森ファーム株式会社

プログラム概要

1

説明書作成実践

要件定義と協働作業を通じた基礎スキルの確立

2

コミュニケーション力

正確な情報伝達力の向上による信頼関係の構築

3

二宮尊徳の教え

分度の精神を実践し、自己の役割を理解

4

チーム成果の最大化

個々の力を結集し、最善のパフォーマンスを発揮

本プログラムでは、便利グッズを題材にした「説明書作り」を通じて、要件定義力や他者に正確に情報を伝える力を養います。さらに、江戸時代の偉人・二宮尊徳の「分度（自分の役割をわきまえ、最善を尽くす）」の教えを学び、チームとして最善のパフォーマンスを発揮する方法を体得します。

授業の流れ

1

1. クラス編成とチーム分け

30名を1クラスとして、3チームに分けます（各チーム約10名）。

2

2. 便利グッズの準備

- 3COINSなどで購入した便利グッズを用意します。
- 各便利グッズのパッケージを外し、形状や用途がわかりにくい状態にしておきます。

3

3. 便利グッズクイズ

- 用意した便利グッズを1つずつ各チームに提示し、「これは何に使う道具か」を当てるクイズを行います。
- クイズを通じて、参加者同士のコミュニケーションを活性化し、チームビルディングの基盤を築きます。

4

4. 説明書作成

- 各チームで選んだ便利グッズについて、わかりやすい説明書を作成します。
- チーム内で役割を明確に分担します：
 - 絵を描く人：イラストや図解を担当。
 - 文字を書く人：説明文の執筆を担当。
 - 全体構成をする人：情報の整理やレイアウトを担当。
- 二宮尊徳の「分度」を学ぶプログラム中盤で、「自分の役割をわきまえ、チーム全体の最善を追求する」という二宮尊徳の教えを短い講話で学びます。自分が果たすべき役割を意識し、チーム全体で最適なアウトプットを目指します。

5

5. 評価とフィードバック

完成した説明書を以下の2段階で評価します：

1. 専門家による評価 専門的な視点から説明書の完成度や工夫のポイントをフィードバック。
2. 第三者教員による評価 プログラムに全く関与していない教員が評価を行い、客観的な意見を提供します。

評価基準

説明書の評価は以下のポイントに基づいて行います：

1 説明の構造化

内容が適切にレイヤー分けされているか（基本情報→詳細→注意事項の順など）。

2 視認性・読みやすさ

字体や文字サイズ、レイアウトが読みやすく整えられているか。

3 安全性の配慮

子供や高齢者、障がい者など、多様なユーザーを想定した注意事項が記載されているか。

4 チームとしての完成度

役割分担が適切に行われ、各メンバーの力が最大限発揮されているか。

5 第三者視点の理解度

プログラムに関与していない第三者が見ても、直感的にわかりやすいかどうか。

目標と成果



要件定義力の向上

ユーザーのニーズを把握し、必要な情報を整理して伝える力を養います。



チームでの役割理解と協働の重要性の体得

二宮尊徳の「分度」の教えを実践し、それぞれが自分の役割を果たすことで、チームとして最善の結果を出す経験を積みます。



意図を伝える力の強化

他者に複雑な情報をわかりやすく伝える力を育てます。



客観的な評価の活用

異なる立場の評価者からの意見を取り入れることで、説明力や表現方法をさらに改善する機会を得ます。

期待する効果



論理的思考力の向上

説明書作成プロセスを通じて、情報を整理し論理的に考える力を育成します。



協働能力の強化

「分度」を意識した役割分担により、チームとして最大のパフォーマンスを発揮する方法を学びます。



実践的な学び

便利グッズクイズから始まる楽しい雰囲気の中で、実践的なコミュニケーション能力を身につけます。